



有明高専だより

第98号
1999.6



(入學式)



(卒業式後の記念撮影)

校長・主事室だより	2
新入生オリエンテーション	4
退職教官	5
新任教職員紹介	6
4年生研修旅行	8
留学生紹介	10

卒業式 送辞・答辞	11
卒業生の進路・表彰	12
学生表彰	14
岱明寮だより・春季球技大会	15
海外研修報告	16

校長便り



「気軽に相談に
来て下さいね」

校長
山藤 馨

—学生相談室が4月から開かれています—

学生の皆さんへ：

はーい、皆さん今日は。いつも言っているように、高専在学中の15歳から20歳頃は青春時代の真っ直中、一生のなかでも最も感情が繊細で、多感な時期です。だから、いろんなことで迷ったり、悩んだりするのは、皆さんがまともな証拠で、ちっとも恥ずかしいことではありません。もしも、友達と話し合う機会があれば、同じようなことで迷ったり、悩んだりしているひとが沢山いるのに、びっくりすると思います。でも、私にも経験がありますが、こんなことで悩んでいるのかと馬鹿にされそうで、友達や両親に相談するのは恥ずかしい気がして、ひとりでくよくよと考え込んでしまったりすることも多いと思います。

でも、相談員の先生だったら、皆さんがいろんなことで迷ったり、悩んだりするのは当たり前だと思っているので、相談にも来ない人が寧ろ少しのんびり屋さんなのかな……と思うのではないか……。

面と向かって相談するのもちょっと恥ずかしいかな……と思うときも、とにかく相談室にまず来てみて下さい。相談したい先生だけに、直接E-mailで、顔も名前も見られないで、例えば「Aより……」というふうに相談できます。返事も、「Aさんへ……」というふうに来ますので、誰にも見られずに自分だけ返事を見ることが出来るでしょう。

どんなことでもいいから、気軽に相談に来てくださいね。待っています。

保護者の皆様へ：

悩み事があるときには、両親に口をきくのを面倒がるとか、部屋に引きこもりがちになるとか、何か普段と違う兆候が現れます。そのような場合には、その内容が判らなくても、クラス担任の教官か、学生相談室にお気軽にお知らせ下さい。こちらでも、それとなく、気付けます。是非、宜しくお願ひ致します。

主事室便り



「学習時間の
計画を」

教務主事
田口 紘一

昨年の始業式、今年の新入生オリエンテーションで話したのですが、高専生活を有意義にかつ楽しく送るための計画をしっかり立てて欲しいと思います。

1日の有効時間を11時間（残りの13時間は睡眠、食事、通学等で消えるであろう）とすると、年間4000時間となる。少なくともその半分の2000時間は勉強に励んで欲しい。残り2000時間は大いに青春を楽しんでもよい。ただし有意義に。

昼間は授業で楽しめないって、そんなことはない。年間学校に行かねばならない日は何もかも入れて180日にならないのです。土曜、日曜、祝日、夏・冬・春の長期休暇があり、年間の半分以上学校は休みなのです。学校での授業は週34時間×35週（試験も入れて）で約1200時間です。だからあと800時間は自宅等で自習をして欲しい。これは授業時間の2/3です。それだけ聞くと多い！ と思うかも知れないが自由に使える時間は残り2000時間もあるのです。この配分をしっかり考えて欲しい。年間1200時間の学習では不足です。君たちが社会へ出て職場で付き合う相手は高校時代に大学進学のために年間4000時間あるいはそれ以上勉強してきているかも知れない人たちなのです。高専には勉強するために来ていることを今一度確認して欲しい。勉学に自信がなくなれば今も将来もおもしろくないことになるのではないかだろうか。

あの2000時間の使い方はどうするのか。自由はあるが、次のことを心がけて欲しい。心身の鍛錬です。具体的には、体力づくり、友人づくり、読書です。「青春」という言葉を辞書で引くと「夢・野心に満ち、疲れを知らぬ若い時代」とある。1日11時間勉強にその他に、社会に出てからは仕事にその他に活動して翌日疲れを残さない体力を作り上げて欲しい。学校での友人は将来離れても、いや離れているからこそ友人として互いに相談し、助け合って行けるものです。社会で上手に生きていくための知識を得る手段として読書を勧めます。先人達の経験が語られています。



「岩を抱いた樹」

学生主事
宮川 英明

学生の頃読んだ本の中に、「立派な樹はその根っこに岩を抱いている」という意味の文章があったように記憶しています。たしか水上勉の小説の一節ではなかったかと思いますが、その時深い感銘を受けました。

最近、心身の健康のため山歩きをはじめましたが、険しい岩山で大きな岩を抱えた樹に時々出会います。なかには岩を巻くように3、4mも根っこを張り巡らしている老木もあります。数年前の台風で大木が根こそぎ倒れたり途中で折れたりしている中で、岩を抱いた樹はその重さによって守られ、風雪に耐えたその表情は自信さえのぞかせているように思えます。岩を乗り越えて生きてきたからこそ自然の猛威にも耐えられる強靭な生命力が与えられたに違いありません。こんな環境でよく育ったものだと感心します。きっと、霧が水分を運んでくれ、微生物が枯れ葉を養分に変えてくれているお陰もあるものと思います。

多かれ少なかれ、私たちはこれらの樹のように自分の思い通りにはならない様々な苦難という岩に出会う運命を背負って生を受け、万物に支えられて生かされているのではないでしょうか。思い通りにならないとき、私たちはそれを周りの責任にして自分で引き受けようとしない傾向があります。しかし、思い通りにならないことを正面から引き受け悩み苦しみながら乗り越えていくとき、そのご褒美として強い力、高邁な精神が与えられ、信頼される人間として自立していくのではないでしょうか。苦勞や苦難（幸福感ではない）を自分のものとして経験した人は謙虚になり、思いやりや親切の施しができるのではないかと思います。それは、苦難の岩を乗り越える作業を続けるなかで他人に支えられている自分が自覚され、利己ではなく利他の精神が宿るからに違いありません。

校則や社会のモラルを遵守する制約は岩ではなく小石程度のものです。小石を引き受けられないようでは岩を抱いた立派な樹に成長することはできないのではないかでしょうか。あなたの根っこは如何ですか？



「さわやか
あいさつ岱明寮」

寮務主事
川寄 義則

“さわやかあいさつ岱明寮”、わが学寮の本年度の標語です。4月初め、柳川の指導者研修での討議の後、寮長堂 優一君から発表されました。

あいさつ、人と人がふれあうなかで交わされるあいさつ。人間関係の潤滑油ともいわれるあいさつ、このあいさつが大人の社会でもできていないことの指摘、大人社会の自戒の意味をも込めた、新入社員を迎える4月1日の天声人語（朝日新聞）の記事。その後も、声の欄などで、しばらく話題にもなっていました。

わが寮、毎年1年生が入ってくると、大声でのあいさつが始まります。でも声の大きさが大き過ぎ、先生方から指摘されることしばしばでした。今回の研修で、寮生会役員から「もっと、心のこもったスマートなあいさつを指導しよう。同時に、上級生がその模範となるあいさつを示そう」という提案、討議を経て冒頭の標語決定となりました。素晴らしいことです。教職員も、上級生の、さらには指導寮生の規範を示さなければならないということでしょうか。

このあいさつ運動を契機に、いま寮が少しづつではあります、確実に変わりつつあります。まず、1年生の指導です。男子寮生では、1年生8、9名で班を編成し、4年生の人格、学業とも優れた4年生4名がそれらの班長として、責任を持って指導に当たっています。「厳しく、優しく」をモットーに、24時間、心を込めて実に細かい指導をしています。つぎに、本年から女子寮生が副寮長を勤めることになり、男女寮生一体の寮運営が進められています。相乗効果作用で、沢山の改善が見られることでしょう。「穏やかで思いやりのある、向上心をもった人物を育てましょう」を目標に掲げて、私共寮スタッフは変わりつつある寮生諸君を暖かく囲み、その環境作りに勤めます。

寮務主事の仕事を一番嬉しいこと。それは、朝、昼、そして夜、学校で、寮で、そして校外で、行き交うすべての学生諸君と“笑顔つきのさわやかなあいさつ”が交わされることです。感謝しています。

新任教職員 Q&A

●新任教職員の方々を次のQ1~4で紹介します。

- Q1 本校へ来る前は
Q2 本校あるいは本校学生の印象について
Q3 趣味は
Q4 抱負を一言



機械工学科助手
坪根 弘明

- A1 熊本大学大学院工学研究科（機械工学専攻）で、磁性流体を用いた動力発生装置について研究していました。
A2 すごく素直で活発な学生が多いと思いました。又、有明高専に歴史を感じました。
A3 球技全般、マリンスポーツ、音楽（バンド）など、楽しそうであれば何でもします。それと旅行（一人旅）なんかもいいですね。一昨年、中国に行って、中国の大きさを感じました。さすが中国4000年！
A4 楽しみつつ全力ですべての事をがんばっていこうと思っています。ここで一句。「やりたい気持ちが失せた時、男は一つ年をとる」、以上です。



庶務課長
井上 勝敏

- A1 九州工業大学庶務課に勤務していました。
A2 素直な学生が多いように感じられる。教育熱心な先生と、自然環境にめぐまれているので、学生は元気をだしてがんばってもらいたい。
A3 テニス、ゴルフ。
A4 すこしでも本校の役にたてるよう仕事に取り組んでいきたいと思っております。



建築学科助手
中野 浩志

- A1 九州大学大学院人間環境学研究科都市共生デザイン専攻で、遺跡の立地と保存遺跡の活用について研究していました。
A2 よく、あいさつをしており大変感じがいいです。またのんびりしており、素朴な学生が多いように感じます。
A3 仕事柄、町の中を歩き回ること。大牟田にも多く残っていますが、狭い路地、古い建物など見てまわることが好きです。
A4 教育に携わるのは初めてですが、学生の建築や都市への興味と、やる気を引き出すことができればと思います。



庶務課人事係長
有田 淳

- A1 九州大学経理部主計課で予算の仕事をしていました。
A2 学校の置かれている環境としては静かで、学生にとって勉学に打ち込みやすいと思います。学生の印象は大学生と比べ雑然とした状態なく、規律正しく好感がもてます。
A3 高校まではサッカーをやっていましたが、今はテレビ観戦と子ども相手をもっぱらとしています。
A4 久しぶりの人事の仕事、未経験の高専ということできできるだけ早く環境に慣れ、円滑に業務を行えるようがんばりたいと思いますので、よろしくお願いします。



一般教育科助手
谷口 光男

- A1 熊本大学大学院教育学研究科（社会科教育専修）で歴史学を学んでいました。専門はアイルランド中世史で、「アイルランド人とは何か」というネイション（国民）の問題を中心に研究しています。
A2 15歳から20歳まで様々な個性ある学生がいる一方、「学科意識」が学年ごとに共通していること。
A3 以前は体を動かすこと（サッカーなど）が好きだったのですが、最近では音楽を聴いたり映画を観ることが多くなっています。
A4 学生とともに学び、体を動かすこと。若さを武器に早く高専の「戦力」となるよう努力していくと思います。よろしくお願いします。



庶務課人事係
元村 久芳

- A1 九州大学庶務部人事掛にいました。昨年の10月有明高専に来ました。
A2 緑が多く自然環境に恵まれたキャンパスで、学生の挨拶も元気がよく、好感が持てました。あと、女子学生が多く、イメージと違い驚きました。
A3 音楽鑑賞。洋楽、邦楽を問わず、最近はジャズやクラシックなどもたまに聴きます。ライブに出かけることもあります。
A4 まだまだ不慣れな点が多いですが、色々と教わりながら皆さんと一緒に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

- Q1 本校へ来る前は
Q2 本校あるいは本校学生の印象について
Q3 趣味は
Q4 抱負を一言



庶務課人事係
金嶽 郁子

- A1 九州大学比較社会文化研究科等人事掛に勤務していました。（元教養部です）
A2 九大にて、学部学生、大学院生を見ていたせいか、すごく若いなあというイメージを強く受けました。誰にでも元気に挨拶してくれて、学生時代のことを思い出しました。
A3 ドライブ。実家が遠いので、ちょっと帰るのもすごく楽しんで運転しています。学生時代はバスケットボールだったので、やってみたい気はするけど、体力が……。
A4 人事の仕事は長いとはいえ、まだまだわからないことだらけなので、皆さんにご迷惑をおかけすると思いますが、元気な学生達に負けないよう、明るく楽しく仕事をていきたいです。



会計課長
釣谷 康廣

- A1 富山医科薬科大学主計課に勤務しておりました。
A2 南国特有の緑も多く、「気持ちの安らぐキャンパス」という印象を受けました。
A3 スポーツ全般です。以前は手足で参加していましたが、最近では、専ら目と口で参加しております。
A4 微力ですが、皆さんのご協力を得ながら、少し本校のお役に立てるようになればと思っております。どうぞよろしくお願いします。



会計課用度係長
丸尾 幸榮

- A1 九州大学経理部経理課で主に授業料徴収事務をしていました。
A2 自然環境に恵まれ、勉学やクラブ活動に専念できると思います。又、学内外においてよく挨拶をしてくれるのが好感がもてます。
A3 以前は登山と野球をしていました。今は、仕事を終えて家でお酒を呑むくらいです。
A4 初めての単身赴任で苦労もありますが早く仕事や環境になれてご迷惑をかけないようにがんばりますので、ご指導願います。



会計課用度係
甲斐 政市

- A1 建設会社に、11年ほど勤務していました。そこでは、主に建設機械の修理及び機械の運搬をしていました。
A2 静かで、自然環境に恵まれ、元気よく伸び伸びと学生生活を送られていると思いました。また、学科によつては男子学生より女子学生が多いのには驚きました。
A3 ドライブです。家族4人で各地の動物園や公園などに行っています。
A4 ご迷惑をかけることがないように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



会計課出納係
坂田 徳子

- A1 九州大学医学部付属病院医事課入院系からきました。
A2 自然に囲まれた静かな環境だと思います。
A3 最近は温泉のんびり浸かって、ゆったりすること。
A4 前の仕事の内容と全く違っていてとまどうことが多いですけど、頑張りますのでよろしくお願いします。



会計課施設係
吉村 勝三

- A1 平成3年、九州大学施設部建築課に採用され、同企画課、工学部工芸掛を経て、昨年12月に有明高専に赴任しました。
A2 大学とはまた違った活気があり、学生の元気のいい挨拶も自分の学生の頃を思い出すような新鮮さがあります。
A3 スポーツ全般、今は特にサッカーにはまっています。学生の部活動を観ていると、とても羨しく、時々乱入したくなることもあります。また、学生対職員でサッカーの試合が出来れば……等という妄想にふけたりもしています。
A4 少しでもより良い環境で、学習・仕事が出来るよう、施設、環境の改善に役立てればと思います。



建築学科技官
田中 三雄

- A1 大学を出て、福岡市内の設計事務所で勤務していました。
A2 自然環境に恵まれた学校で、学生ものびと充実した学生生活を送られている印象を受けました。
A3 スポーツ観戦（主に野球）、劇団の演劇鑑賞又、最近体を動かす機会が少なかったので、マウンテンバイクを始めました。
A4 出来る事から一つずつ、皆様にいろいろと教えて頂きながら頑張っていきたいと思います。

行ってきました 研修旅行

平成11年5月11日(火)～14日(金)

機械工学科



僕達機械工学科は東京へ行ってきた。慣れないうスケートを着ての研修は初めてだったので少し緊張した。訪問した企業は、日産自動車、東芝機械、松下通信工業だ。羽田空港から日産自動車までのバスの中で昼食をとるというスケジュールはきつかった。1日目は日産自動車追浜工場へ。ここでは実際に車を作っている生産ラインを見学した。たくさんの溶接ロボットがラインに所狭しと並んでいて、材料が流れてくると一気に溶接し、また次に流して溶接と、ホントに凄くて面白かった。また新車を生産販売するまでに新設計から2年もかかるのには驚いた。2日目は東芝機械へ。この会社は製品を作るためのマシンを作る会社である。何十トンもあるマシンを作っていた。何十ミクロン(10^{-3} mm)まで加工が可能なマシンを作るという技術の凄さに驚いた。3日目は自主研修であった。渋谷・原宿で買い物をした。セイン・カミュに会えたことは嬉しかった。最終日は松下通信工業を見学した。さすがコンピュータ関係なのでとてもきれいでクリーンな工場であった。会社でTOEIC650以上取ると決めて英語を積極的に取り入れていた。



8



電気工学科

研修旅行といえば1年の頃から楽しみにしていた大イベントだったが、その頃とはこの旅行のとらえ方には少なからぬ変化がある。3年まで惰性で過ごしてきた自分に、もはや将来というには近すぎる眼前の問題をなお近くに、そしてより確固とした姿で映しだし、焦りと自覚を生じさせる憎らしくも愛すべきこの旅行は、顔黒の女子高生のインパクトにも負けず、わずかにとも私たちの道しるべになってくれたと思う。そしてそれだけでなく、就職した先に何があるか、それをほんの少し垣間見てくれた気がする。この旅行によって得た経験は、例え電気関係の仕事に就かなかったとしても、きっと役に立ってくれると信じている。もちろん、その経験は会社や工場の見学のみによって得られたものではない。一見、ただの遊ぶための時間ととらえがちな3日目の自由研修において、日本経済の中心地の文明と文化に触れることによって、日本がこれから先どこへ向かうのか、そして自分たちは日本をどこへ向かわせるのか、それが見えた気がする。しかし、たった4日間の研修だけで人生が見えれば苦労はない。きっとこれから先も、一歩進めばその何倍もの時間悩む、という悪効率を続けていくだろう。

(4E・森山 星児)



- M 関東方面 (株) 日産自動車、(株) 東芝機械沼津工場、松下通信工業(株) 佐江戸工場
- E 京浜方面 (株) 東芝京浜事業所、NHK放送センター、日本航空(株) 羽田整備工場
- I 京浜方面 (株) 東芝柳町工場、東芝科学館、大日本印刷(株)、日本航空(株) 羽田整備工場
- C 関西方面 東レ(株) リサーチセンター、ダイキン工業(株) 淀川製作所、塩野義製薬(株) 大阪工場
- A 奈良・京都方面 奈良・京都市内神社、仏閣、神戸市異人館

物質工学科

僕達4年物質工学科は、関西地方に研修に行きました。東レでは製品の元になる素材と、それから造られる製品をたくさん見せてもらいました。素材の名前は初めて聞くものが多かったが、それを使って造られる製品は繊維だけでなく建築材料、医薬・医療品、電子情報機材に及んでいて、僕達の生活の中に深く関わっていました。また、東レの研究開発部門から独立した東レリサーチセンターも訪問しました。今までその存在自体知りませんでしたが、そこでは最新の技術を使った様々な分野の分析・調査が行われており、その規模の大きさに驚きました。ダイキン工業は、空調で有名な会社ですが、フッ素化学による多くの化学製品も造っていることを今回初めて知りました。塩野義製薬では、薬を造る過程をガラス越しに見学しました。薬は直接ヒトの体に関わるものなので、清潔さを保つために、



作業場の菌の数が減るように空気の流れまで考えて工場が作られていたり、作業別に工場の床の色や着用する服が決まっていたり、廊下の電灯までも虫が寄ってきにくい特別な色が使われていたりと、たくさんの工夫があって感心しました。研修を終えて、どの会社も常に現状より上を目指し、開発や研究を行って前に前に進んでい

(4C・江川 誠)



9

建築学科

研修の中で私が見学した建築物は、ほとんどが観光名所で旅行シーズンのためかたくさんの人であふれていた。しかし「観光」としてではなく、「建築」というファインダーを通して見ることで多くの新しい感動を得た。感動と言っても、法隆寺や薬師寺、東大寺といった歴史ある建築と、京都駅ビルや梅田スカイビルといった現代の建築とでは、そこから受ける感動は全く異なるものだった。

特に歴史的建築物は、日本建築史の授業で学んできたものがほとんどであった。今まで教科書という平面の世界で見ていたものが、目の前にあるという感動。写真や図を見ただけでは、把握できなかつたものが理解できる喜び。東大寺や法隆寺は何回か見学したことがあるが、寺や古い建築を見ることがこんなにもおもしろく感動するものだとと思わなかった。

またすべての見学を通して感じたことが、2次元や先生の話から学ぶことと、3次元で自分の目で学ぶことが大きく異なることである。百聞は一見にしかずとはまさにこのことである。ただし、何もせずに見るのではなく、あらかじめ見る物に対する知識を持っていなければせっかく見ても何も学べない。これからまた様々なことを学んでいくが、学んだことをよりたくさん自分の目で確かめていきたいと思う。



(4A・中尾明日美)

電子情報工学科

私達、電子情報工学科は、京浜方面へ行きました。

初日、まず(株)東芝柳町工場へ。ここでは、自動改札機やコピー機などの製造工程を見学。工場内には、いたる所に目標が掲げてあり、従業員の方達の意気込みを感じられました。次に東芝科学館へ。ハイビジョンシアターや高性能ロボットなど最新の科学技術にふれることができ、その凄さに本当に驚きました。

2日目、まず科学技術館では、実際に自分で体験していろいろな技術を学べました。次に行った船の科学館では、外観が豪華客船そっくりの建物で、ここでは小型船舶の操船シミュレーションなどの体験施設が充実して楽しめる所でした。そして午後からは、大日本印刷(株)へ。こちらでは、書籍・出版はもちろん、マルチメディア・建材・エレクトロニクス部品など様々な分野にも事業を展開しているそうです。工場内をひと通り見学して、本当に大規模な会社だと思います。また、みんな先方への質問を積極的に行っており、魅力的な会社だったと思います。

最終日、羽田整備工場で整備中の飛行機を見学。飛行機の緻密な仕組みに大変驚き、また、普段入れない操縦室に入ることができ感激でした。

今回の研修で実際の企業を見学して、学びとったことを来年の就職活動に活かしていきたいと思います。

(4I・加藤 聰)



留学生紹介



M科3年
ナグイブ
(MOHD NAGUIB BIN ABDULLAH)



私はマレーシアから来ました。マレーシアは東南アジアにあり、北はタイで南はシンガポールです。マレーシアは1年中蒸し暑いです。首都はクアラルンプールです。

私の田舎はケダのクリムです。地元はマレー半島の北側にあります。私の田舎には水田とゴムがいっぱいあります。

日本に来る前に、2年間位日本語を勉強しました。日本語の勉強は大変でしたが、先生のおかげで日本に来ることができました。

日本に着いたしょっぱな日、空港でたくさんの女性がタバコを吸っているのにはびっくりしました。でも、国が違うので色々なことものがって来ると思います。今1ヶ月がたちましたが、だいたい幸せな生活をおくっています。



I科3年
ラハトカビル
(KABIR MD. RAHATO)



バングラデシュという国は私の母国です。インドの隣にあるバングラデシュは約15万km²の小さな国です。国は小さいけれども人口はすごく多いです。イスラム教徒がもっとも多いです。バングラデシュの人々は、けっこう優しいと思います。母国では客を大切にし自分達は食べないで客に食べてもらうこともあります。田舎でも都会でも家族は皆いっしょに住んでいます。

去年の4月2日、日本へ来ました。その日はとても寒いと感じました。気温は4度位でした。1年もたって、もう慣れて今ではそんなに寒く感じません。

日本語学校の1年間本当にとても楽しくすごしました。日本語学校の先生達はとても親切だし、教え方もすごく良かったので、日本人はとても親切だと思っています。最後に日本はとても便利な国ですが、物価はとても高いです。

今春、新たに4名の留学生がやってきました。母国の紹介や日本の印象について述べてもらいました。



E科3年
ハレム
(HALEM BIN SALLEH)



私は1979年にマレーシアで生まれました。マレーシアには13州あり、ボルネオ島に2州、残りはマレー半島にあります。マレーシアの広さは、330,400km²です。人口は約2,200万人位です。マレーシアには3つの主要民族（マレー系、中国系、インド系）が住んでいます。文化はそれぞれの民族によって異なります。例えばマレー系の結婚式と中国系の結婚式は全然違います。

日本に来る前に、2年間クアラルンプールで日本語を学びました。その間多くの友達ができ、とても面白かったです。私にとって友達は大切な存在です。日本に居る間、多くの日本人の友達を作りたいです。

私は楽器をやっています。日本人の友達とバンドを組みたいと思います。



A科3年
シャルミン
(TAGHIZADEH SHARMIN)



私の母国はイランです。皆さんイランという国を知っていますか。みんなの話によるとイランは砂漠だそうです。イランは砂漠ではありません。イランには高い山もあり、一番高い山は5,000m以上あります。私の国には、昔の建物がたくさんあります。イラン人はよくこの建物を見に行きます。さらにおいしい食物もいっぱいあります。皆さんぜひイランを訪ねてみて下さい。

私はイランを離れ、初めて日本へ留学するのでとても心配でした。「日本はどんな国ですか？ 日本人はどんな人ですか？」という質問がずっと頭から離れませんでした。私は日本へ来ました。ここでいい人達がなんでも助けてくれましたのでとても安心しました。日本はやさしい人達を持っている国です。こんなに技術をもっているのに、日本人はずっと以前の文化と習慣を守っているので尊敬します。

平成10年度 卒業式送辞・答辞

送 辞

学生会会长 田川 勇氣

答 辞

卒業生代表 大橋 幸代

春一番も吹き、この有明高専にも桜が咲こうとしています。今日、有明高専を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。

私たちが入学して間もない頃、学校や寮で見かける先輩方はとても大人に見えたものでした。1年生の頃は厳しく指導されたこともあってか、中学校を卒業したばかりの私たちは戸惑うことも多々ありました。しかし、過ぎる年月を重ねていくうちに先輩方はよきリーダーとなり、最高の相談相手となりました。勉強に部活、寮生活や恋。私たちがいろんな壁にぶつかったとき、先輩方の一声でどんなに励まされたことでしょう。数えきれないほどのアドバイス。たった一つ年がはなれているだけなのに、なぜこんなにも私たちと差があるのか。先輩方がとても大きく見えていました。私たちは今、最上級生になろうとしています。先輩方のように強い自信とリーダーシップをやしない、この有明高専を支えていこうと思います。

入学から今日までの5年間、何百回となく登ってこられた高専坂。夏は登り終える頃には汗まみれになり、冬は手がかじかむのをこらえながら、萩尾台に建つこの有明高専で先輩方は、何を求めて何を得られたのでしょうか。5年間という時間の中で先輩方は、技術者としての知識と技術を身につけ、部活動では忍耐力をやしない、そして何よりもかけがえのない友人を得られたことでしょう。これからは、技術者として常に新しい世界に挑戦し続けるとともに、ここで得た友人を大切にしてください。

先輩方は今、社会に飛び立とうとしています。これから社会にでたとき、人間関係に押し潰されそうになるかもしれません。自分が正しいと思うことをやり通すことができないかもしれません。しかし、くじけないでください。世の中には先輩方にしか出来ないことがあります。だから信念を持って自分に嘘をつかず、反省はしても後悔はしないでください。ふと淋しくなったとき、ふとつらくなったとき、ふと力を持ちたくなったり、この有明高専にいつでも戻ってきてください。ここにはあなた方を尊敬し、慕った私たちがいます。ここにはあなた方が尊敬し慕った、先生方がおられます。ここには先輩方の思い出がつまっています。きっとそこから前進できるはずです。いつの日か今よりももっと大きく成長された先輩方に逢える日を楽しみに、在校生を代表して、すべての感謝を込めて送辞といたします。ありがとうございました。



春4月、満開の桜の中私たちはこれから始まる高専生活に期待を持つつ、ここ有明高専に入学しました。そして梅かおる今日の良き日に私たち194名は5年間の高専生活を無事終了し、卒業証書を受け取りました。

校長先生の告辞、来賓の方々のご祝辞や後輩の温かいお祝いと激励のお言葉をいただき、私たちがこの学校を卒業とうとしていることを改めて実感し、別れの寂しさを感じています。

高専生活の5年間は瞬く間に過ぎていきました。入学当時、私たちはたくさんの先輩たちに囲まれ、多くのことを教えていただきました。それは人との信頼関係をつくること、協力し合うことの大切さであったり、努力することの難しさであったり、自らの行動に対する責任の重さを知ることなどです。また、高専生活を送っていく中で、私たちは尊敬すべき恩師、生涯の友と出会うことができました。

体育祭・高専祭・研修旅行・部活動での高専大会・学校行事の一つひとつにたくさんの思い出をつくることができました。高専生活での様々な体験が私たちを一歩ずつ成長させてくれました。

高専生活を無事終了できたことは私たちに自信を与え、ここで学んだことはこれから私たちの新しい生活の支えとなることだと思います。

私たちはこれから的人生の中で、今までにない苦しく困難なことに出会うかもしれません。しかし、どんな困難が待ち受けているよりも、自分の理想とするものを忘れず、自分自身を信じ、常に自分に対して自信を持てるような生き方をしていきたいと思ってます。在校生のみなさんには、これから高専生活で自分自身を見つめ直し、これからることをしっかりとと考え、後悔の残らない学校生活を送ってほしいと思っています。そして、先輩や私たちと一緒に築いてきた伝統を受け継いでいって下さい。

本日、私たちは有明高専を卒業します。これからは有明高専の卒業生として学校の名を汚さぬよう精一杯頑張っていく思います。

最後に私たちの歩みを助け、ご指導いただいた校長先生を始め教職員の皆様、常に温かく私たちを見守り、支えていただいた保護者の皆様、本当に今までありがとうございました。ここに感謝の意を述べ答辞といたします。

卒業生の進路

機械工学科

大橋エアシステム
(株)西日本プラント工業
ヤマサキ(株)
(株)コーセー
大和容器
(株)川崎重工業
(株)くまさんメディクス
ダイキン(株)
日本オーチスエレベータ(株)
三菱重工業(株)
安川エンジニアリング(株)
(株)カヤバ工業
日産自動車(株)
マツダ自動車(株)
上野精機(株)
(株)大分キャノン
オムロン熊本(株)
キヤノン(株)
九州大日本印刷(株)
コクヨ(株)
(株)シマノ
プラス生産技術工業(株)
(株)キャノンコピア販売
(株)安川ロジステック
(株)松下通信工業
(株)カンセツ
TDCソフトウェアエンジニアリング(株)
(株)日立電子サービス
松下電工ソフトウェア(株)
三菱電機ビルテクノサービス(株)
東京都立科学技術大学
熊本大学
九州工业大学
豊橋技術科学大学
三重大学

電気工学科

衛生都市計画(株)
(株)日立建設設計
サントリー(株)

荏原フィールドテック
日本オーチスエレベータ(株)
三菱重工業(株)
ヤンマーエンジニアリング
マツダ自動車(株)
オムロン熊本(株)
オリンパス光学工業(株)
九州電子
(株)日本電子
キヤノン販売
関西電力(株)
九州電力(株)
中部電力(株)
日本テレコム(株)
日本電信電話(株)
(株)アルファシステムズ
(株)NTTファシリティーズ
サントロニクス(株)
東京エレクトロンFE(株)
東日 日立電子サービス(株)
東芝メディカル九州サービス(株)
日立ソフトウェアエンジニアリング(株)
富士通サポートアンドサービス
日設エンジニアリング(株)
日本電気フィールドサービス(株)
日本放送協会
松下電工ソフトウェア(株)
三菱電機システムサービス(株)
明電エンジニアリング(株)
リコーエクノシステムズ(株)
熊本大学
長岡技術科学大学
京都教育大学
佐世保高専専攻科

(株)ユニチカ
東芝エレベータ(株)
京セラ(株)
(株)九州テン
(株)日立メディコ
第一精工(株)

(株)フジタ
九州セルラー(株)
日立通信システム(株)
アトラス情報サービス(株)
有明システム(株)
NTTデータ九州テクシス(株)
オートメーションテクノロジー(株)
西肥情報サービス(株)
東芝メディカル九州サービス(株)
(株)BCC
松下電工ソフトウェア(株)
川鉄テクノコンストラクション(株)
(株)小柳技建
(株)渋江建築設計事務所
高巣設計事務所
東洋建設(株)
平建築設計事務所
(株)竹中工務店
西松建設(株)
平成建設(株)
松井工業(株)
三池コンクリート工業(株)
三井ホームエンジニアリング(株)
三菱化学エンジニアリング(株)
水野宏建築設計事務所
(株)ユニチカ
(株)名村造船所
熊本中央信用金庫
九州旅客鉄道(株)
西日本旅客鉄道(株)
西部ガス(株)
リボンガス(株)
(株)NTTファシリティーズ
大和コンサル(株)
(株)富士通九州システムエンジニアリング
平和総合コンサルタント(株)
長洲町役場
防衛庁

信州大学
熊本大学
豊橋技術科学大学
琉球大学
鹿児島大学
長崎大学

建築学科

(株)穴吹工務店
上村建設(株)
(株)片山鉄骨
川鉄テクノコンストラクション(株)
(株)小柳技建
(株)渋江建築設計事務所
高巣設計事務所
東洋建設(株)
平建築設計事務所
(株)竹中工務店
西松建設(株)
平成建設(株)
松井工業(株)
三池コンクリート工業(株)
三井ホームエンジニアリング(株)
三菱化学エンジニアリング(株)
水野宏建築設計事務所
(株)ユニチカ
(株)名村造船所
熊本中央信用金庫
九州旅客鉄道(株)
西日本旅客鉄道(株)
西部ガス(株)
リボンガス(株)
(株)NTTファシリティーズ
大和コンサル(株)
(株)富士通九州システムエンジニアリング
平和総合コンサルタント(株)
長洲町役場
防衛庁

信州大学
熊本大学
豊橋技術科学大学
琉球大学
鹿児島大学
長崎大学



卒業生の表彰

機械工学科 (M)	野口 宜伸
電気工学科 (E)	伊藤 豪章
電子情報工学科 (I)	吉田 誠
物質工学科 (C)	笹井恵美子
建築学科 (A)	別所 佳奈

成績優秀者

M	猿渡 直人	日本機械学会畠山賞
E	筒井 祐貴	電気学会九州支部長賞
I	林 豊洋	電子情報通信学会九州支部長賞
C	永田 和美	日本化学会九州支部長賞
A	別所 佳奈	日本建築学会九州支部長賞

5年間皆勤者

E	筒井 祐貴	渡邊 貞治	橋口 悟
I	石橋 和子	濱田志穂美	吉田 誠
C	城戸亜也子	徳永 純一	
A	中道 大樹		

5年間精勤者

M	石井 衛	大村 雄	坂本 武司
E	猿渡 健治	猿渡 直人	猿渡 亮
I	高畑 正樹	椿 康弘	長谷 学
C	野口 宜伸	服部 聰	日吉 正宜
A	森野 誠	山本 健太	

E	坂山 芳憲	杉本 淳	伊藤 豪章
I	小柳 雅隆	下川 心	注村 純
C	隅田 順子	高田 和樹	何川 敬介
A	市川 英樹	高口 友美	猿渡 友美

E	上園 誓子	中嶋 咲子	福本 佳代
I	山中 雅和	吉田 正	
C	西山 大輔	高鍋 敦子	
A			

学生課からのお知らせ

必見!!

奨学金制度と授業料免除制度

◇日本育英会奨学金◇

〈資格・条件〉人物・学業ともに特に優れ、かつ健康であって、経済的理由により著しく修学困難と認められる学生に貸与されます。

1. 募集

第1次(4月)および第2次(10月)の年2回です。

(4月と9月に説明会を行って、必要書類を配布します。)

2. 貸与額

入学年度	学年	第1種(高専)	
		自宅	自宅外
平成11年度	1年	20,000円	21,500円
9・10年度	2~3年	19,000	20,500
7・8年度	4~5年	38,000	44,000

○なお、日本育英会ほか、各都道府県、各市町村、地方公共団体、財団法人等で奨学金制度の募集がある場合があります。掲示等を見逃さないように!

◇授業料の免除◇

〈資格・条件〉経済的な理由で、授業料の納付が困難であり、かつ学業が優秀であると認められる学生に対し、選考のうえ授業料の全額または半額が免除されます。

●出願期間

前期(4月)、後期(9月)に申請を受け付けます。

○なお、学則に定める無期停学を受けた場合、免除対象になりません。

(3月の「学年末休業前」と7月の「夏休み前」に説明会を行って、必要書類を配布しています。)

学生表彰

■ 1年間皆勤者 (1~4年生・162名)

学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名				
1M	大石 貴章 岡 優邦 岡村 真志 加藤 久也 田島 康祐 友岡 鍋田 治利 前川 良平	1C 2M 3I 4E 4I 3C	安部 和臣 石川 真弓 大倉 佳子 岸本 雅樹 窪田 奈美 古賀 詩織 小宮 華菜 立山 卓司 玉越 充洋 仲山 貴幸 松岡 いづみ 森宗 卓也 山本 健太郎 山本 美恵 横尾 栄満 横田 通子 横山 真吾 吉富 翔一 渡邊 宏章	井寺 亮 今井 雄輝 今任 渉 新開 隆史 田上 晋也 田原 大作 永原 秀樹 花田 慎伍 原田 浩二 松本 和仁	2I 2C 2A 3M 4C 3A 4A 4M 4E	山鹿 敏臣 山崎 琴望 武田 俊介 森島 孝臣 奥蘭加奈子 鬼丸 恵介 久留見 友治 古賀 美啓	荒木 大器 加藤 聰 野田 義朗 平川 理江 藤木 和幸 松尾 隆司 川内 美奈子 古賀 啓太 糸井 幹升 原田 由加里 堀川 真希 西田 智美 山田 佳代	福原 進也 村上 仁彌 片山 美樹 境 沙織 杉山 香奈子 松本 珠美江 實渕 秀昭 宮崎 尊秀	川上 真人 釣野 智史 中尾 友子 春口 渉 古川 浩章	井上 精史 金澤 康次 鈴木 肇介 狩野 恵郷 河野 博烈 木下 章 篠崎 圭吾 近藤 靖泰 近藤 洋平 新庄 信博 田中 正也 中村 勝 深町 尚貴	柴山 豊 田中 紀子 畠中 香織 星子 智良 藤嶋 直高 邊春 聰男 田中 大地 嘉悦 嘉悦	石橋 和也 岩田 篤資 田島 真一朗 田中 宏明 永井 一也 藤田 智子 松永 悟 光田 典雅	寺嶋 秀幸 松岡 健太郎	古賀 裕規 高井 賢 高木 昭徳 田川 武史 筒井 仁紀 寺井 達哉 中山 美和 森田 豊美 山下 勢 百田 晋也	
	穴見 梅崎 梅頭 江頭 寺田 拓真 原口 浩樹 広松 敏峰 山崎 翔邦 山本 博高 矢山 高裕		2E	石橋 釜田 金澤 康次 鈴木 肇介 狩野 恵郷 河野 博烈 木下 章 篠崎 圭吾 近藤 靖泰 近藤 洋平 新庄 信博 田中 正也 中村 勝 深町 尚貴	井上 精史 金澤 康次 鈴木 肇介 狩野 恵郷 河野 博烈 木下 章 篠崎 圭吾 近藤 靖泰 近藤 洋平 新庄 信博 田中 正也 中村 勝 深町 尚貴	井上 精史 金澤 康次 鈴木 肇介 狩野 恵郷 河野 博烈 木下 章 篠崎 圭吾 近藤 靖泰 近藤 洋平 新庄 信博 田中 正也 中村 勝 深町 尚貴	柴山 豊 田中 紀子 畠中 香織 星子 智良 藤嶋 直高 邊春 聰男 田中 大地 嘉悦 嘉悦	石橋 和也 岩田 篤資 田島 真一朗 田中 宏明 永井 一也 藤田 智子 松永 悟 光田 典雅	寺嶋 秀幸 松岡 健太郎	古賀 裕規 高井 賢 高木 昭徳 田川 武史 筒井 仁紀 寺井 達哉 中山 美和 森田 豊美 山下 勢 百田 晋也	井上 博文 遠藤 泰史 北島 健介 田中 克史 田中 義和 森田 豊美 山下 勢 百田 晋也	井上 博文 遠藤 泰史 北島 健介 田中 克史 田中 義和 森田 豊美 山下 勢 百田 晋也	寺嶋 秀幸 松岡 健太郎		
	II	梅寄 梅崎 江崎 真彦 大津 茜 荻島 都 古賀 聰 古賀 正一 坂口 直剛 田中 拓己 長瀬 徹 永松 明日香 中山 英明 元山 幹生	1A	浦野 一正 清田 智子 黒木 佳奈 住野 敦郎 田中 みほ 月岡 明菜 中園 美穂 西山 敏史 山岡 史歩 山下 麻凡	2I	高口 勝利 猿渡 久史 竹 勉二 武末 彰 豊田 麻梨子 福永 一成 本多 圭介 百田 優	古賀 勝 水田 義之 鈴木 麻美 堤 誠典 堤 由香里 中島 朋子 松藤 吏	2C 2E 3E	磯田 大輔 日野 敦史 堀口 尚美 川口 健介 坂中 秀作 白石 剛之 瀬戸 達也 豊永 佳隆 中村 智子 永野 裕己 橋口 正 福山 祐佳 古江 陽光 村田 宗一	4E 4I 4C 4M 4E	松本 準也 嘉賀 純 杉尾 聰美 壇上 健児 西村 博志 野田 隆 畠中 裕美	天野 佐弥佳 荒木 真由美 北原 里美 田川 勇気 田代 智也 福山 美輪 森山 智代 安谷 亞希子 山下 満理子	天野 佐弥佳 荒木 真由美 北原 里美 田川 勇気 田代 智也 福山 美輪 森山 智代 安谷 亞希子 山下 満理子	天野 佐弥佳 荒木 真由美 北原 里美 田川 勇気 田代 智也 福山 美輪 森山 智代 安谷 亞希子 山下 満理子	天野 佐弥佳 荒木 真由美 北原 里美 田川 勇気 田代 智也 福山 美輪 森山 智代 安谷 亞希子 山下 満理子

■ 1年間精勤者 (1~4年生・111名)

学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名																
1M	上田 茂樹 古賀 敏夫 田中 圭介 平山 智大 吉田 智弘	II 1C 1A	坂井 健二 鈴木 麻美 堤 誠典 堤 由香里 中島 朋子 松藤 吏	2M	水田 義之	2C	古賀 勝 日野 敦史 堀口 尚美 川口 健介 坂中 秀作 白石 剛之 瀬戸 達也 豊永 佳隆 中村 智子 永野 裕己 橋口 正 福山 祐佳 古江 陽光 村田 宗一	3I	磯田 大輔 板橋 明智 古賀 大吾 壇上 容康 西村 博志 野田 隆 畠中 裕美	4E	松本 準也	4I	嘉賀 純 杉尾 聰美 壇上 健児 西村 博志 野田 隆 畠中 裕美	4C	天野 佐弥佳 荒木 真由美 北原 里美 田川 勇気 田代 智也 福山 美輪 森山 智代 安谷 亞希子 山下 満理子	3C	ワンマコン	3A	高瀬 正次 中尾明日美 安田 佳代	3M	江口 和樹 大津山賢一 笠原 孝高 久保山正朗 佐田 崇	4M	武藤 往也 山田 誠	4E	古賀 和仁 古賀 剛 前田 昌孝 山内 絵美子 ジュナイディー	4A	江崎 愛 森 優希
	江口 嘉伸 柿原 亜耶 北原奈々子 古賀 沙織 下川 徹 松藤 伸也 森 聰之 八田 敬太 吉野 琢也		池田 和寛 伊藤 歩 小山 亜希子 中村 亮 西岡 真理子 森 靖幸	2I	柿原 美代子 染岡 雅明 西川 美耶 三山 容弘 加藤ひとみ	2C	竹内 雄大 田代 亜衣 西原 正揮 敬尚 大輔	2I	古賀 和仁 古賀 剛 前田 昌孝 山内 絵美子 ジュナイディー	2C	古賀 井洋治 近藤 大蔵 藤丸 和博	2C	奥村 恵	2C	奥村 恵	2C	奥村 恵	2C	奥村 恵								
	一丸 剛 伊藤 愛美 尾田 智春 菊池加奈子 幸田 直也 後藤 武史		甲斐 隆嗣 武田 大樹	2M	甲斐 隆嗣 武田 大樹	2C	奥村 恵	2C	奥村 恵	2C	奥村 恵																

岱明寮だより

■ 「さわやかあいさつ、岱明寮」

これが、寮長以下役員一同で決めた今年度のキャッチフレーズです。

岱明寮の寮生は、がんばっている面・すばらしい面を多数持っているにも関わらず、最近では、学校の中で、悪い方の代名詞に使われることも出てきています。確かに生活指導の行き過ぎや勉学不振者もありました。反省すべきところは率直に反省し、より良い寮作りを一人ひとりが考えて行動していくことが、寮生の幸福への近道だと考えます。

さて、4月9日に入寮した新入寮生も全員元気に生活しています。13日の歓迎夕食会、17日の歓迎球技大会、20日の寮生総会そして21日～23日の阿蘇オリエンテーションと、次々と行事をこなすことに成長していく新入寮生には、さわやかさとともに頼もしさを感じます。今年は特に「さわやかな」あいさつを目指し、4年生の指導寮生が、ひと味違う指導を行っています。時には厳しくあるときは優しく、柔軟性に富む指導はきっと寮生間の信頼関係を強くしていくことでしょう。

また、4月6日～7日に行った寮生指導者研修では、午後と夜の2回それぞれ2時間、合計4時間にわたる討議を重ね、つっこんだ議論ができます。寮生会役員全員が、より良い岱明寮作りに一丸となっています。現在の寮生数総勢199名（男子149名、女子50名、うち留学生男子3名、女子3名）です。来年の春には、この199名が良い代名詞として使われるよう、1年間がんばって欲しいと思います。



▲平成11年度寮生会役員と運営に係る教職員の面々
(かんぽの宿柳川にて)

春季球技大会

今回の球技大会は、準備を始めた時すぐに問題にぶつかりました。校舎の改築工事の為に武道場が使えないでの、例年行われていた1、2年生の卓球が行えないのではないかという事です。そこで、他の球技をしてしまうかとドッヂボールなどの案も出ましたが、やはり例年通りした方がいいという事で、体育館でのバレー、トを一つなくして、そこで卓球をしようという事にしました。それから、パンフレット作りなどの仕事を約1ヶ月程前から始めました。今回は、私が体育局に入って2回目の球技大会ですので、前回よりも仕事としてはスムーズにできたと思います。体育局に入る前まで球技大会の為に、こんなに大変な事をしていたんだなあと改めて思いました。

当日、雨だとすべての競技が体育館で行われるため、時間通りに終わらないだろうという心配もありましたが見事晴れて、しかも順調にどの競技も行われました。今は無事大した事なく球技大会が行え、よかったです。

3A・田川 裕佳

春季球技大会の成績

種目	優勝	準優勝	M	V	P
ソフトボール	4E	5M	4E	河野 宏俊	
バレー	5C	教官	5C	田川 勇気	
ソフトテニス	5A	5A	5A	藤田 智子	
卓球	2M	2E	2M	山浦 大輔	
女子バレー	4A	2I	4A	本村万里子	



▲春季球技大会 (5月28日)

改修・増築工事について

物質工学科 宮本 信明

本校の教育環境をよくするための一つとして、今年6月から来年2月にかけて、一般教育科棟の改修工事と専門学科の増築工事が行われます。この工事により、1・2年生の教室は約50%広くなり、3年生の教室は専門学科棟に移すことになります。1年から3年生には、しばらく移転先でがまんをしてもらうことになると思います。また、工事のため高専祭を体育祭に振り替えることになりました。来年度からは新しい教室・実験室での授業が始まりますが、勉強にも今以上に励んで下さい。

有明高専だより 第98号
平成11年6月18日発行
編集・有明高専広報委員会
発行・有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861 (学生係)

海外研修報告

「心優しきドイツ」

機械工学科 吉田 正道

果てしなく続く雲海の切れ間から見えるシベリアの大地は白く凍でついていた。私はエコノミーシートの理不尽な狭さに苦しみながら刻々と膨張する不安と戦っていた。語学の準備は不完全な状態の上、知り合いもいない異国の地へ単身で乗り込まなければならぬというほとんど無謀とも言える留学のスタートであった。記憶に残らない時間は刻々と過ぎ、咲き始めた花々が5月の陽光に美しく映えるシュツットガルト空港に降り立ったときは、日本を飛び立ってからすでに16時間が経過していた。

シュツットガルト市はドイツ南西部にある人口57万人の州都で、ダイムラーベンツや、ポルシェの本社があることでも知られている。いわゆるロマンチック街道や古城街道からは外れており、日本人観光客はほとんど訪れない。私が滞在したシュツットガルト大学は市中心部の中央駅から地下鉄で10分ほど南の広大な丘の上にキャンパスがあり、40のInstitut(研究所)からなる工科系総合大学である。キャンパスのまわりはドイツ特有の深い森が広がり、その中には散歩道が見事に整備されている。ドイツ人の散歩好きは有名で、休日には家族連れや仲間同士で森の中の散歩に出かける。私も、時間があれば森の中を歩き回った。グリム童話などにはよく森が出てくるが、まさにその雰囲気を味わうことができる。

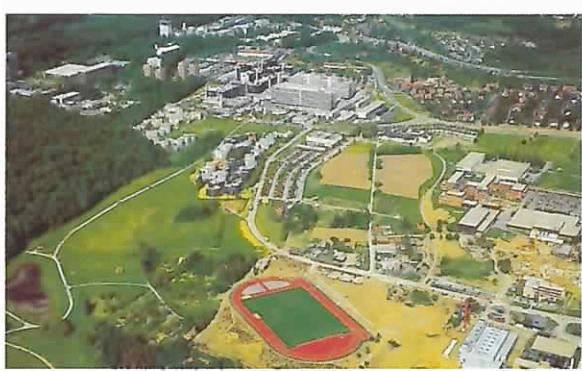
空港で出迎えてくれたのは、私の恩人となったMr. シュナイダーであった。彼は28歳のドイツ人青年で10ヶ月間の留学中共同研究者として私の良きパートナーとなってくれた。誠実で明るく、礼儀正しい好青年で、ドイツの良心を代表しているようにさえ思えた。この留学が無事成就できたのも彼のおかげと感謝している。彼を通じてたくさんの人々と知りあえたし、日常的なドイツを体験することができた。ドイツではクリスマスに各家庭でおかあさんがクリスマス用のクッキー(Guzle: ゲーツレ)を焼くのであるが、「あなたは、一人で寂しいだろうから」と言って私に自分の母親が焼いたGuzleを持って来てくれた。彼の優しい心遣いと手作りの風味に感激しながら食べたGuzleは忘れられないドイツの味の一つとなった。

私が宿舎としたのはゲストハウスと呼ばれる個人経営のホテルである。ホテルと言ってもフロントがあるのでなく、レストランもない。いわゆるアパートのようなものでキッチンとバスは共同使用である。私

のような長期滞在者もいれば、1泊だけの客もある。宿泊費は大家さんとの交渉で決まる。このホテル「アルテラ」でも様々な人々との出会いと別れがあった。陽気なプロ歌手のイタリア人、料理おたくのフランス人、家出娘のドイツ人、數学者のアメリカ人等々……一人ひとりについてエピソードを紹介したいが、ここではとても書ききれない。しかし、言葉は片言でも、心を開けば、“人類みな兄弟”を実感した。皆、心温まる人々だった。特に、このホテルのオーナーであるエアハルト夫妻には大変お世話になった。彼らは隣町のチュービングエンに住んでいるのだが、しばしばこのホテルを訪ねてメンテナンスなどを行う。なぜか私に興味持ってくれ、彼らの自宅へ何回か招待してもらった。さらに、近郊の町などへのドライブにも誘ってくれた。彼らの話題はとてもレベルが高く、ドイツの政治や教育問題などを取り上げ、日本の現状などについて質問する。ドイツ人だが、英語も流暢だ。そのたびに私はしどろもどろして大汗をかいてしまう。語学力のなさを痛感し、無念であった。帰国前の数日前、シュバービッシュアルプと呼ばれている南ドイツの高原地帯をMr.エアハルトの運転する車で案内してもらった。ゆるやかにうねる緑地帯の中に、赤い三角屋根の家々が高い塔を持った教会を囲むようにしてできた小さな村が点在する。遠景にはうっすらとスイスアルプスの山々を望むことができ、冬の柔らかい残照に包まれたこれらの情景は肌を刺す寒気の感覚とともに忘れがたき美しい風景として私の脳裏に鮮明に残っている。Mr.エアハルトとは田舎の小さな駅で別れた。彼は凍てつくような寒さの中、私の乗った列車が見えなくなるまで、ずっと手を振ってくれた。

今回の留学では多くの人々と出会うことができた。彼らには日本人だからとか、ドイツだからというような概念はないように思えた。人間対人間のつきあいができるグローバルな感覚の重要性を感じた。

帰国便の機内で、だんだん遠くなるフランクフルトの街あかりを見ながら、私は10ヶ月前のあの心細さを思い出していた。今は心優しい人々のおかげで、何とか留学を終え帰国の途に着くことができた安堵感で一杯であった。ぐっすり眠り、気が付いたときはすでに日本列島が眼下に見えていた。長い夢から覚めたような気分だった。



▲シュツットガルト大学全景



▲研究所内実験室でMr. シュナイダーと